

北海道内で見つかった 2 種のタナゴ亜科魚類

○山口 達成・羽多 宏彰（近大院農）

【背景・目的】

2017年9月、北海道白老郡の用水路にてタナゴ亜科魚類を7個体採集した。これらの中には口髭が短い個体（3個体）と長い個体（4個体）が存在し、複数種のタナゴ亜科が生息していることが予想された。また、2018年7月に同じ地点を訪れると多数のタナゴ亜科魚類が遊泳しており、口髭の短い個体（4個体）と長い個体（8個体）の計12個体を採集した。北海道内においてタナゴ亜科魚類は自然分布しないとされているため、採集した個体を持ち帰り、形態計測とミトコンドリアDNA（mtDNA）による種同定を行った。

【材料・方法】

本発表に用いた個体は、2017年9月20日と2018年7月11日に北海道白老郡の用水路にて採集した。採集方法としてはタモ網を用いた。採集されたタナゴ亜科魚類は10%ホルマリンにて固定した後70%エタノールへと置換し保管した。本発表に用いた個体は近畿大学の登録標本（KUN-P）とし、保管した。形態計測による種同定はArai et al. (2007) と細谷 (2013) を用いた。mtDNA分析試料には2017年に採集したタナゴ亜科魚類7個体の右胸鰭を用いた。得られたmtDNAのcytochrome *b* (*cytb*) 領域について分析を行った。

【結果と考察】

形態計測の結果2017年・2018年に採集した口髭の短い個体は、肩部に明瞭な暗色斑が見られ・総脊椎骨数が36・卵形比が1.4-1.6であったことからアカヒレタビラ *Acheilognathus tabira erythropterus* (図1) であった。口髭の長い個体は、背鰭鰭条間に紡錘形の黒色斑があり・背鰭と臀鰭の婚姻色は朱色であったことからヤリタナゴ *Tanakia lanceolata* (図2) であると同定した。mtDNA分析の結果からも、口髭の短い個体はアカヒレタビラ、長い個体はヤリタナゴであることが分かり、外部形態の結果と一致した。

北海道におけるタナゴ亜科魚類の分布は、国外外来生物であるタイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* が確認されているのみであり（環境省自然環境局生物多様性センター, 2002; 尼岡ほか, 2011）、他種の報告例は無い。今回採集されたアカヒレタビラとヤリタナゴについても、近年まで生息情報は無かったことから移植放流の可能性が疑われる。しかし、両種ともその生息の由来についての確証はなく、今後も慎重に研究を進めていく必要がある。



図1. アカヒレタビラ 体長 69.7 mm



図2. ヤリタナゴ 体長 51.0 mm